

第 34回兵庫県女性バスケットボール連盟優勝大会結果一覧表  
会 場：いなみ野体育センター

第1日目:平成 25 年 4月 21日(日)

| Aコート      |     |                  |  |                      |                 | 戦評   |
|-----------|-----|------------------|--|----------------------|-----------------|--|
| コート<br>順序 | ゲーム | チーム名             | 得 点  | チーム名                 | 審 判             |  |
| A-1       | ①   | アゲインズ            | 53 $\left( \begin{array}{l} 16 - 4 \\ 16 - 10 \\ 11 - 8 \\ 10 - 10 \end{array} \right)$      | 32 Funnyゴールド         | 岡田 泰英<br>辰巳 智彦  | 第1ピリオド、アゲインズの激しいマンツーマンディフェンスからの速攻で、Funnyゴールドは苦戦を強いられ、終始アゲインズペースで試合が進む。第2ピリオドからアゲインズの長身ディフェンスに対して、Funnyゴールドは3Pシュートで巻き返しをはかるが、アゲインズがタイミング良くタイムアウトを取り、流れを断ち切る。第3ピリオドも開始からアゲインズのペースで進むが、アゲインズのメンバーチェンジ後、Funnyゴールドのシュートが決まりだす。第4ピリオドもFunnyゴールドは外からのシュートなどで攻めるがアゲインズの確実なシュートで試合を決める。                           |
| A-2       | ③   | 芦屋シーサイド          | 27 $\left( \begin{array}{l} 6 - 4 \\ 3 - 10 \\ 2 - 8 \\ 12 - 1 \\ 4 - 0 \end{array} \right)$ | 23 CZ倶楽部             | 福田 祥宏<br>中尾 晃志  | 第1ピリオド、芦屋シーサイドのゴールが続けて決まり、先手を取る。残り2分CZ倶楽部#9森のゴールで反撃が始まる。第2ピリオド、CZ倶楽部勢いそのまま得点を重ねて逆転に成功。第3ピリオドもCZ倶楽部優位のまま進んでいたが、第4ピリオド芦屋シーサイドのプレスディフェンスからの反撃が成功。残り1分のタイムアウト後、芦屋シーサイド#4青木のゴールで同点となり延長戦となる。延長戦でも芦屋シーサイドのプレスディフェンスにCZ倶楽部が攻めきれず、芦屋シーサイドがゴールを重ねて勝利する。   |
| A-5       | ⑤   | エンドレス            | 39 $\left( \begin{array}{l} 11 - 7 \\ 8 - 5 \\ 8 - 9 \\ 12 - 13 \end{array} \right)$         | A-① 勝者<br>34 アゲインズ   | 福田 祥宏<br>芋生 聖子  | 第1ピリオド両チーム激しいディフェンスを繰り広げ、甲乙つけ難い接戦となる。ミドルシュートを確実に決めエンドレスがリードを守る。第2ピリオド、互いに果敢にゴールに攻め込み白熱した好ゲームとなる。エンドレスの3Pシュートが効果的に決まりエンドレスリードで前半が終了した。第3ピリオド開始早々、アゲインズ#13福永の3Pシュートが決まり反撃を開始する。残り2分55秒、同点に追いつくも、エンドレスがチャンスを活かし連続得点、アゲインズに逆転を許さない。第4ピリオド互いに一歩も引かぬ接戦となるが、エンドレスが前半のリードを守り勝利を手にした。                             |
| A-6       | ⑦   | Hime G!          | 63 $\left( \begin{array}{l} 12 - 6 \\ 13 - 7 \\ 15 - 9 \\ 23 - 4 \end{array} \right)$        | A-③ 勝者<br>26 芦屋シーサイド | 中山 正之<br>辰巳 智彦  | 試合開始HimeG!は速攻や、合わせのプレーなどで得点を決める。一方、芦屋シーサイドは3Pシュートを中心として点を取る。しかし、試合の流れは終始HimeG!がリード。第3ピリオドは芦屋シーサイドが粘り強いディフェンスで相手のミスを誘う場面も見られたが、HimeG!が主導権を握ったゲーム内容であった。   |
| Bコート      |     |                  |  |                      |                 | 戦評   |
| コート<br>順序 | ゲーム | チーム名             | 得 点  | チーム名                 | 審 判             |  |
| B-1       | ②   | リトルパンダ           | 54 $\left( \begin{array}{l} 9 - 3 \\ 19 - 6 \\ 9 - 13 \\ 17 - 4 \end{array} \right)$         | 26 TMC               | 中山 正之<br>西 俊則   | 第1ピリオド、先手を取ったリトルパンダが優位に立ち、得点を重ねる。TMCも早いパス回しで応酬するが今ひとつ決め手を欠く。リトルパンダは速攻と3Pシュートで点差を広げていく一方、TMCはゴール下で苦戦を強いられる。第3ピリオドは立ち上がり、TMC#13の3Pシュートで始まる。その後連続シュートで波に乗り、点差を縮める。一方、リトルパンダも着実に得点を重ねる。第4ピリオドはお互い動きは激しくなり、攻守の切り替えが早くなる。リトルパンダが粘り強いディフェンスで相手のリズムを作り、リトルパンダ#6の速攻でたまたまTMCがタイムアウト。が、勢いを止めることができず44-26でリトルパンダが勝利。 |
| B-2       | ④   | ビッグママ            | 44 $\left( \begin{array}{l} 16 - 6 \\ 10 - 6 \\ 11 - 11 \\ 7 - 11 \end{array} \right)$       | 34 西神ママドル            | 能田 浩三<br>芋生 聖子  | 第1ピリオド、スタートからビッグママが先行する。お互い粘り強いプレーで一進一退のプレーが続くが、シュート、リバウンド共にビッグママが押し気味でゲームが進み、前半を終了する。後半が始まり、両チーム互角の白熱した闘いになり、西神ママドルがリズムをつかみ押し気味でゲームが進む。しかし粘り強くプレーしたビッグママのシュートが決まり始めると、前半のリードもあり優位に立ち、ゲームが進む。両チーム気迫あふれるプレーで闘うが、押し気味でゲームを進めたビッグママが勝利する。   |
| B-5       | ⑥   | B-② 勝者<br>リトルパンダ | 30 $\left( \begin{array}{l} 6 - 8 \\ 9 - 11 \\ 3 - 10 \\ 12 - 9 \end{array} \right)$         | 38 ラウンド              | 岡田 泰英<br>西 俊則   | どちらも固いディフェンスで一進一退の攻防が続く。ラウンド#18の3Pシュートから得点が動き出すが、ディフェンスのあたりが両チーム強く、第2ピリオドも接戦。第3ピリオド、ラウンドがリズムよくシュートが決まりだす。リトルパンダはシュートチャンスをいかせず、第4ピリオド、リトルパンダはディフェンス、オフェンスとも激しくがんばり、追い上げるが、ラウンドが逃げ切る。  |
| B-6       | ⑧   | B-④ 勝者<br>ビッグママ  | 19 $\left( \begin{array}{l} 5 - 13 \\ 5 - 22 \\ 7 - 12 \\ 2 - 13 \end{array} \right)$        | 60 桜香クラブ             | 能田 浩三<br>松尾 佳代子 | 第1ピリオド両チームは厳しいマンツーマンで始まる。速攻が決まった桜香クラブがリズムをつかみリードする。第2ピリオド、ボール運びからあたってくる積極的なディフェンスにビッグママは苦戦し、攻めあぐむ。第3ピリオド両チームファールの多い展開となり点は伸びず。第4ピリオド、桜香クラブは早いパス回しからの攻撃で点を重ね、終始優勢にゲームを進め勝利した。   |

| Aコート      |             |         |   |            |                 | 戦評   |
|-----------|-------------|---------|---|------------|-----------------|--|
| コート<br>順序 | ゲーム         | チーム名    | 得点  | チーム名       | 審判              |  |
| A-1       | 準決勝         | アゲインズ   | 41 $\left( \begin{array}{c} 15 - 7 \\ 13 - 5 \\ 7 - 6 \\ 6 - 9 \end{array} \right)$     | 27 リトルパンダ  | 松尾 佳代子<br>中尾 晃志 | 第1ピリオド、均衡した戦いで試合が進むが、残り2分あたりでアゲインズ#13福永のスティールからの速攻が、続いたことからアゲインズがペースをつかみ、15対7で終了。第2ピリオドに入り、リトルパンダには疲れが見え始めオフェンス、ディフェンスとも乱れる。アゲインズは巧みなコンビネーションで得点を重ね、終始アゲインズペースで第2ピリオド27対12で終了。第3ピリオド、アゲインズの速攻、3Pシュートが決まるが、リトルパンダがディフェンスを頑張り、ロースコアにおさえた。第4ピリオド、リトルパンダはスティール、リバウンドから得点を重ねるが、前半の得点が響き、アゲインズが勝利。   |
| A-3       | 準決勝         | エンドレス   | 44 $\left( \begin{array}{c} 11 - 6 \\ 9 - 6 \\ 15 - 6 \\ 9 - 4 \end{array} \right)$     | 22 ラウンド    | 大國 元久<br>北川 篤史  | 第1ピリオド、エンドレス#12のシュートで始まる。エンドレスのタイトなディフェンスからのターンオーバーで得点を重ねる。第2ピリオド、エンドレス、メンバーチェンジでリズムに乗れずシュートが決まらない。一方、ラウンドはコツコツとシュートを決め、くらいつてもエンドレス8点リードで終わる。第3ピリオドではエンドレス、インサイド#4、#12のシュートで差を広げる。ラウンドは外角シュートに頼るがリングに嫌われる。第4ピリオド、ディフェンスの頑張りからリズムをつかみたいラウンドだが、なかなか自分たちのプレイをさせてもらえず、最後は集中力が切れ44対22でエンドレスが勝利。   |
| A-5       |             | ビッグママ   | 30 $\left( \begin{array}{c} 2 - 20 \\ 16 - 12 \\ 3 - 20 \\ 9 - 10 \end{array} \right)$  | 62 アゲインズ   | 福田 祥宏<br>元田 昌志  | 第1ピリオド開始から、アゲインズの堅実なディフェンスで、ビッグママは攻めあぐね点差をあけられる。第2ピリオドでオールメンバーチェンジしたアゲインズに対し、ビッグママはカットインで点数を重ねリズムをつかみかけたが、アゲインズの3Pシュートで点差が縮まらない。第3ピリオドでメンバーを元に戻したアゲインズは再び流れをつかみ、危なげない試合運びで点差を広げる。第4ピリオドでは、ビッグママは2on2で攻め、マンツーマンディフェンスを試みたが善戦むなしく敗れた。  |
| A-7       | 決勝          | エンドレス   | 50 $\left( \begin{array}{c} 14 - 4 \\ 12 - 14 \\ 12 - 6 \\ 12 - 6 \end{array} \right)$  | 30 桜香クラブ   | 松尾 佳代子<br>芋生 聖子 | 第1ピリオド、エンドレス#5と#6の連続レイアップシュートで始まる。桜香も粘り強くディフェンスするも、スピード、シュート力に勝るエンドレスが得点を重ねる。第2ピリオド、桜香#10の2Pシュート、#8の3Pシュートで2点差まで迫るが、エンドレス#11のドライブで26対18と前半を終了する。第3ピリオド、桜香はディフェンスをゾーンに切り替え巻き返しを図るが、3Pシュートを決められ、逆にエンドレスが勢いづく。すぐにマンツーマンディフェンスに切り替えるが、多彩な攻撃でエンドレスがリードを広げる。第4ピリオド、攻め手に欠く桜香は無理なシュートを打たされ、じわじわとエンドレスが引き離しにかけ50対30でエンドレス優勝。                              |
| Bコート      |             |         |   |            |                 | 戦評   |
| コート<br>順序 | ゲーム         | チーム名    | 得点  | チーム名       | 審判              |  |
| B-1       |             | 芦屋シーサイド | 37 $\left( \begin{array}{c} 9 - 9 \\ 10 - 8 \\ 9 - 9 \\ 9 - 16 \end{array} \right)$     | 42 ビッグママ   | 北川 篤史<br>今井 彩代  | 第1ピリオド、両者ともディフェンスはハーフマンツーマンで始まる。互いに小さなミスから速攻で得点に結びつけようとするが、なかなか点が入らず9対9の同点で終わる。第2ピリオド、ビッグママはオールコートマンツーマンでディフェンスをしかけるが、得点は動かず接戦となり19対17と両者譲らない。第3ピリオド芦屋シーサイドはオールコートマンツーマンディフェンス。ビッグママはボール運びに苦戦するも、お互い一進一退の展開。第4ピリオド、芦屋シーサイドのオールコートマンツーマンディフェンスが続き、芦屋シーサイドが流れをつかみかけるが、ビッグママ#4のカウントワンスローで同点になる。残り2分52秒でビッグママがリードするが接戦に。チャンスを点に結びつけられたビッグママに軍配があがった。 |
| B-3       | 準決勝         | HimeG!  | 40 $\left( \begin{array}{c} 18 - 10 \\ 4 - 16 \\ 8 - 10 \\ 10 - 16 \end{array} \right)$ | 52 桜香クラブ   | 能田 浩三<br>元田 昌志  | 第1ピリオド、両チーム3Pシュート、ミドルシュートの応酬でスタートしたが、HimeG! #16森中、#18丸尾のシュートでHimeG! がリードする。第2ピリオド、桜香クラブはオールコートのプレス気味のディフェンスで相手に激しくあたり、3Pシュート、速攻で波に乗り残り3分で追いつき、逆転する。第3ピリオド、桜香クラブのオールコートマンツーマンディフェンスに対し、HimeG!は厳しいゾーンディフェンスで両チーム互角の戦い。第4ピリオド、桜香クラブは#12片山、#16野間口のシュートで得点を重ねて終始ペースをつかんでHimeG! を突き放した。  |
| B-5       | 7.8位<br>決定戦 | リトルパンダ  | 33 $\left( \begin{array}{c} 6 - 9 \\ 10 - 7 \\ 7 - 11 \\ 10 - 13 \end{array} \right)$   | 40 芦屋シーサイド | 芋生 聖子<br>鈴木 智起  | 両チームマンツーマンディフェンスでスタート。両チーム決め手がなく一進一退のゲーム。同点で第2ピリオドを終える。第3ピリオドから両チームとも、攻守に積極的になり、得点に繋げる。第4ピリオド、残り3分でリトルパンダは逆転するが、ファウルが重なり、芦屋シーサイドが相手のミスを着実に得点に繋げ逃げ切った。  |
| B-7       | 3.4位<br>決定戦 | ラウンド    | 23 $\left( \begin{array}{c} 8 - 19 \\ 9 - 7 \\ 6 - 11 \\ 3 - 5 \end{array} \right)$     | 42 HimeG!  | 福田 祥宏<br>中山 正之  | HimeG! がドライブや速攻で先行。ラウンドはタイトなディフェンスを攻めあぐみ、なかなか得点に繋がられない。HimeG! は3Pシュートで突き放そうとするが、ラウンドも粘り強いディフェンスから立て直しを図り、前半、HimeG! 12点リードで折り返す。後半に入ってもHimeG! が主導権を握り、第4ピリオドは両者得点できない時間が続く。終始、HimeG! のペースで42対23で賞録を見せつけた。   |

| 順位 | チーム名   | 順位 | チーム名    |
|----|--------|----|---------|
| 優勝 | エンドレス  | 5位 | アゲインズ   |
| 2位 | 桜香クラブ  | 6位 | ビッグママ   |
| 3位 | HimeG! | 7位 | 芦屋シーサイド |
| 4位 | ラウンド   | 8位 | リトルパンダ  |